

2014年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文学部	身分	教授
氏名	山科 満		
NAME	Mitsuru Yamashina		

1. 研究課題

（和文）精神分析的療法過程における防衛機制の研究

（英文）Defense mechanisms on processes of psychoanalytic psychotherapy.

2. 研究期間

2年

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

背景

神経症症状が心的システム内および心的システム間の妥協産物すなわち防衛であることは、精神分析的には症状理解の前提となっている。しかし、治療関係の中に現れるが症候学的に症状とはされない現象にも防衛機制の考え方は適用可能であり、それもまた転移分析により変化が生じうるものと予測される。

目的

重度の抑うつを伴わない自殺念慮、セクシュアリティの不安定さといった現象を、防衛機制の観点から検討し、新たな治療論を提出する。

方法

文献的な検討を行った上で、すでに面接を終えた治療記録を精査し、防衛機制の観点から考察を加えた。

内容および成果

面接の中で自殺念慮を訴え続けた女性例では、自殺念慮以前に全ての発言を防衛として検討し、反動形成や打ち消しといった神経症的な防衛機制の分析を重視した結果、自殺念慮の表出もそれら典型的な防衛機制の効果と同じく、セラピストの接近を回避する目的で用いられていることが明らかになった。セクシュアリティの不安定さを訴える女性例では、治療関係に影響されて性同一性の表明や性志向性が揺れ動く経過があり、面接記録の詳細な分析から、転移性恋愛の感情とそれにまつわる痛みを防衛するために、男性としての同一性を訴えていたことが明確になった。両例とも、父親に対する強い愛着があり、それが強いエディプス葛藤を生じさせていたことに病理の本質があると考えられた。

(英文)

Back Ground: Symptoms of neuroses have features of defense mechanisms.

Aim: To make clear that suicidal idea and swinging of sexuality have defense effect in psychoanalytic psychotherapy.

Method: Notes of two female cases were closely examined.

Results: Both phenomena work to ward-off affects of the transference love in therapeutic relations.

研 (様式 1 6 - 3 号)

3. 研究成果について (研究期間終了後 2 年以内・予定のものを含めて記入)

- 1 精神分析研究 59 巻 4 号(2015 年 12 月刊行)に原著論文(慢性抑うつにおける防衛としての自殺念慮について—「死にたい」と言い続けた女性との精神分析的な精神療法過程から—)として掲載
- 2 精神分析研究誌に,事例研究論文の投稿を準備中である